

# [主催者代表挨拶]

中根一幸 外務大臣政務官

## 1. 冒頭

御列席の皆様、本日は、「第12回国際教育協力日本フォーラム」に御参加いただき、厚く御礼申し上げます。このフォーラムの共催者である外務省を代表し、御挨拶申し上げます。

## 2. 国際協力60周年、開発協力大綱の策定

昨年、我が国が政府開発援助（ODA）を開始して60年という節目の年を迎えました。この60年間で、ODAをめぐる国内外での状況は大きく変化しました。実にODAの3倍近い民間資金が開発途上国に流入するようになり、また企業、地方自治体、NGOをはじめとする様々な主体が開発課題の解決と持続的成長に重要な役割を担うようになってきています。

こうした変化を踏まえ策定が進められている新たな開発協力大綱では、我が国が培ってきた平和国家としての歩みが根底にあります。過去60年、我が国のODAが最も重視してきたのは、開発途上国に一方的な「援助」を行うのではなく、同じ目線に立ち、ともに汗をかきながら、開発途上国とその国民の自助努力と自立的発展を促す「協力」を展開することです。こういった開発途上国と共にある援助において、「教育」の重要性は論を待ちません。

先月、ラオスを訪問した際、我が国のODAで設立されたラオス日本センターを訪れ、そこで学ぶ大学生との間で忌憚なく意見交換を行うことができました。学生一人ひとりが目を輝かせて学ぶ姿勢に感銘を受け、国際教育協力の重要性を肌で感じて参りました。

## 3. EFAダカール目標及びMDGs達成期限を迎えて

本年は、国際社会が取り組む、万人のための教育（EFA）ダカール目標及びミレニアム開発目標（MDGs）の達成期限を迎え、それぞれの目標の後継目標が採択される重要な年です。

EFAの取組については、毎年、ユネスコがその進捗状況を報告しています。EFAダカール目標の達成期限となる本年は、『What did we achieve?（我々は何を成し遂げたのか？）』と題し、これまでの取組を総括する報告書の作成作業が進んでいます。本日はこの報告書の作成責任者であるアーロン・ベナヴォット氏をお招きし、グローバルな視点から、EFAの取組についてお話いただきます。また、初等教育の完全普及を始めとする、各教育関連目標について、大きな進展が見られます。その中で、まだ様々な課題を抱えているアフリカ地域からは、我が国も積極的に支援しているエチオピアからエシュトゥ・アスファウ教育省資金動員局長をお招きし、国レベルでのEFAの取組の成果と課題につきお話いただきます。

我が国は、人間の安全保障と持続可能な開発の観点からも、教育を重視しています。2011年から本年末までの5年間で、教育セクター全体で35億ドル、延べ2,500万人の子どもへの支援を行うことを発表し、着実に実施しています。本日御出席の皆様を始めとする関係者の方々と共に、政策目標の達成に向け、効果的な教育協力を進めていきます。

## 4. 後継目標策定の動きを踏まえて

さて、EFAダカール目標の後継目標につきましては、本年5月に韓国（インチョン）で開催される「世界教育フォーラム2015」で採択される予定です。

また、2015年より先の開発分野の目標となる「ポスト2015年開発アジェンダ」策定に関連して、昨年7月に「持続可能な開発目標（SDGs）に関するオープン・ワーキング・グループ報告書」がまとめられました。年末には、これまでの議論を取りまとめた「国連事務総長統合報告書」が発表されました。先月から、ポスト2015年開発アジェンダ政府間交渉が始まり、本年9月の国連サミットでの採択を目指して、議論が進められています。

我が国は、一人ひとりに焦点を当て、個人の保護と能力強化を重視する人間の安全保障こそ、ポスト2015年開発アジェンダの指導理念としてふさわしいと考えています。「日本の教育協力政策2011-2015」にも明記しているとおり、「教育は全ての人々が享受すべき権利であり、一人ひとりが自らの才能と能力を伸ばし、尊厳をもって生活することを可能にすると同時に、それぞれの国の経済社会開発において重

要な役割を果たす」ものです。こうした認識のもと、引き続きこれらの目標策定に係る議論に積極的に貢献していく所存です。

## **5. 結語**

本日のフォーラムにおいて、今一度これまでの取組を精査し、今後の課題について議論することは非常に有意義です。

国内外の教育協力関係者に御参加いただいている本フォーラムは非常に貴重な機会です。是非、活発に議論いただき、今後の教育協力のあり方、EFA ダカール目標の後継目標やポスト 2015 年開発アジェンダの更なる検討のためにも、今回のフォーラムが実りあるものとなりますことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。